

【参考資料】 平成22年度 実績報告(揖斐郡森林組合)

作成日:平成23年4月20日

施業集約化	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	89.03ha	3.15ha	3.5%	H23予定 0ha	人工林:施業同意レベル 天然林:長期受委託レベル
いつ	4月~3月	4月~3月	/	通年対応を基本とするが、GW明け~8月末を強化期間とする。 組合担当者間で施業予定候補地を選定し集中的に集約化する 施業提案書を作成し、所有者負担を明示することにより所有者説明を行う。また、実践済みの現地を活用して研修会等を開催し、所有者の理解を促進し、施業地を集約化する。	
誰が	集約化担当 長屋正道	集約化担当 長屋正道			
どういつ方法で	個別対応 電話案内 地区座談会 ダイレクトメール	個別対応(1件)			

利用間伐	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	利用:27.13ha 切捨:27.65ha	利用:1.41ha 切捨:22.04ha	5.2% 79.7%	H23予定:39.04ha H23予定:15.62ha	
いつ	4月~3月	4月~5月 7月~3月	/	梅雨、降雪時期を除いて通年 素材生産担当 竹中 俊博 森林整備担当 長屋 正道 縁故者地元有力者の協力により契約率を高め事業ロット拡大・勉強会により技術向上による生産性アップ	
誰が	素材生産担当 長谷川 政弘	素材生産担当 長谷川 政弘			
どういつ方法で	作業路方向へ搬出できるようにミニ列状間伐	直営林産班=車輛系			

作業道(路)開設	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	W=2.5m,L=1,900m	W=2.5m,L=399m W=3.0,L=177m W=3.6,1135m	90.1%	H23予定:1,550m(管理路)	開設費 W=2.5m 1,400円/m W=3.0m 1,500円/m W=3.6m 9,806円/m
いつ	9月~12月	7月~3月	/	通年(梅雨、降雪時を除く)開設	
誰が	土木班	林産班-管理路 土建会社-基幹道		森林管理路については森林組合にて施工し、それ以外については建設業者にて施工	
どういつ方法で	設計・施工・管理:森林組合直営	管理路=組合 基幹道=設計(県森連)工事(入札)		林産の効率を考慮した低コスト作業路の企画	

素材生産		新規チーム設立(H19)		内容	
新規構築作業システム(機械の組合せ、種類・規格・台数)				伐倒:チェンソー → 集材:スイングヤーダ(0.25)またはハーベスタ(0.25) → 造材:ハーベスタ(0.25) → 積込:(再積)スイングヤーダ(0.25) → 運搬:フォワーダ(3t) → 積込:クラッブル(0.16) → トラック(6t)	
素材生産チームの人員数(人)		実施前 → 実施後	1チーム(3人/班)	→	1チーム(3人/班)
実稼働日数(日)		(H21) (H22)	26.58		7.4
素材生産性(m ³ /人・日)			3.9		3.8
素材生産費(円/m ³)		H22計画(実績)	車両系:10,924(10,249)円/m ³		
その他					

年間素材生産量	計画	実績	達成率	備考	今後の対応
モデル団地内	1,899	84	4.4%	主伐を含む材積	過密林分の利用間伐を積極的に推進
モデル団地外	901	1,122	124.5%		
合計	2,800	1,206	43.1%		

上記のほか、プロジェクト推進のために講じる具体的取り組み

計画	実績	達成度検証方法	今後の対応
森林施業プランナーの育成(2名)	プラン書の精度の向上をめざし生産材積は98%売上金額は22%増となった	施業提案書の精度向上及び製作箇所数増加	森林施業集約化モデル事業を受けながら組合内部でプランナー増員を図る
定点観測写真撮影	定点観測写真撮影(年1箇所)	県揖斐農林事務所HPに掲載	定点観測箇所の継続観察(有鳥)
地元森林所有者視察見学会	小規模地元森林所有者視察見学会(年2回)	アンケート実施	小規模地元森林所有者視察見学会(年2回以上)にアンケートの実施
地域へのPR	森林組合だより 4回発行	森プロの認知度アップ	継続的に状況報告
揖斐川町森林づくり推進会議との連携	揖斐川町森林づくり推進委員の現地視察1回	市町村森林管理委員会等へ進捗状況を定期的に報告	積極的連携・PR
森林組合だよりにて実施状況説明	発行4回、印刷部数各2500部	各種広報媒体への掲載回数	組合員への森林状況通知(年1回)
森林所有者台帳の作成	作成 20%	管内森林所有者に対する台帳作成率	今後の森林整備に活用する。
条件不利森林対策	実施(11.0 ha)	未整備森林の割合減少	実施事業地の経年変化を今年度調査する。
揖斐チャレンジ(関連する森プロ地域内に限定しない前向きな取り組み) ①森プロ全般関係	現地研修会開催(1回) 職員会議にて実施状況報告 16箇所の集約地を計画	森プロ以外での利用間伐地域拡大(旧町村単位での地域拡大)	森プロの波及効果の促進・普及他集約地での間伐実施
②道関係 (手続きの効率化)	許認可(国定公園 2件、)手続きを実施	手続き件数の増加、手戻り回数の減少	制限林等での利用間伐面積拡大
(揖斐開設指針作成)	センターと協力し検討中	作業路のm当たり維持管理費減少	標準的な作業手法を10月に検証。

③林産関係（技術指導） （残存木の減少） （有利採材検討）	林産技術の検討会(7/9) 先進事業体視察(2/22)	生産性(m ³ /人・日)の向上	他林産事業体の事業視察・実践研修
	残存木損傷調査	残存木の傷(森林管理路から見えるもの) 減少(傷箇所数/延長)	伐倒方向の精度アップ 機械オペレータ の操作範囲の最小化の実践
	システム販売、有利採材研修会 林地残材の利用方法の検討	「販売先件数(新規開拓等)」	・有利採材を目的にした研修会を5月に 開催
④トレサビ関係	小径木加工場で地域材を優先 的に買い取り・利用	流通量の拡大(証明材伝票の増加)	地域材利用推進
⑤小径木加工場関係	揖斐森林資源活用センターに 譲渡(22.4.1)		C・D材をセンターに出荷
⑥レゴリスボード場関係	工場の稼働を受注生産とし経 費削減化を図る	販売量増加	屋上緑化用資材への利用アピール

素材清算実績 打ちわけ

森プロ内林産事業量	1140.86
森プロ外林産事業量	553.6